



## アメリカ大統領選挙とメディア戦略



北陸銀行 国際部  
ニューヨーク駐在員事務所  
内間 洋子

第47代アメリカ合衆国大統領選の投票日が、いよいよ来月11月5日に迫ってきました。現職のハリス副大統領とトランプ前大統領による戦いですが、拮抗する支持率に全米で緊張が高まっています。

アメリカ大統領選挙の歴史は、独立戦争終了後の1789年、建国の父ジョージ・ワシントンが初代大統領として選出された時に始まります。その後235年の歴史において、数々の大統領がメディアを効果的に利用し大統領選挙に勝利してきました。いくつかの事例を振り返ってみます。

1932年、第32代大統領に選ばれた共和党のフランクリン・ルーズベルトは、当時新聞とともに国民の主な情報源だったラジオを巧みに利用しました。全国に流れるラジオ放送で、毎週自身の見解を直接国民に伝え続け、長きに渡り高支持率を維持しました。ルーズベルト大統領は、在任期間が4期（12年と39日（任期中に病死））と史上唯一8年以上在任した大統領です。世界恐慌と第二次世界大戦というアメリカの危機に立ち向かい、国民の高い人気を獲得した結果です。しかし、長期に渡る在任により大統領の権限の強さが権力分立を脅かすという理由で、1951年の憲法修正の際に任期制限（2期8年）が定められました。

1948年の第33代大統領選挙は、史上最大の番狂わせの選挙と言われています。民主党のトルーマン（当時現職大統領）と共和党のデューイ（当時ニューヨーク州知事）の戦いについて、当初マスコミはデューイが100%勝つと予想していましたが、投票日直前に上映された各陣営制作の映画によって覆されることになりました。デューイ陣営の映画は贅沢で優雅な演出の一方で内容が曖昧だったのに対し、資金不足だったトルーマン陣営の映画は飾り気なく政策のみを簡潔に言い切るスタイルで、一般庶民の共感を得ました。富裕層に偏った世論調査の結果を受けてすでに『デューイ、トルーマンを破る』という見出しで朝刊を印刷していた新聞社があり、翌朝その新聞を手に満面の笑みを浮かべる勝者、トルーマン大統領を写した写真は有名です。

1960年の第35代大統領選挙では、史上初のテレビ討論会が行われました。民主党のケネディ陣営は、事前に白黒画面での視覚的効果を徹底的に研究しました。ケネディは、会場の白色の背景に映える紺色のスーツを着用し、澆刺とした表情を作るために化粧をし、笑顔で足を組んでリラックスした雰囲気を出しました。一方共和党のニクソンは薄い灰色のスーツを着たため背景に溶け込んでしまい影が薄く、化粧を断ったため病人のように映り、終始シリアスな表情で政策を語る姿は視聴者に暗い印象を与えてしまいました。この討論会をラジオで聞いた人々は、政策面でニクソンが有利だと思ったようですが、テレビを見た人々は、政策内容よりもケネディの快活な見た目に好印象を持ち、結果、ケネディの勝利を決定づけることになりました。視覚的効果が大統領選挙に多大な影響を与えることが問題視され、以後16年間、テレビ討論会は行われなくなりました。なお、その間の1968年と72年の大統領選挙では、ニクソンが勝利し第37代大統領となっています。

2008年の第44代大統領選挙では、民主党のオバマがインターネットを駆使した独自の世論調査によるデータ分析やSNS等の活用で勝利を収めました。Facebook共同設立者のヒューズを雇い、MyB0と呼ばれるオバマ情報専用サイトも立ち上げ、YouTubeとリンクした演説ビデオの配信、マグカップやTシャツなどのグッズ販売、オンライン決済による1ドルからの献金募集などを行いました。多くの若者からの寄付を含む6億ドルの資金を使い、全米7大TVネットワークのゴールデンタイムに選挙コマーシャルを流し、絶大な効果を上げました。

まさに『メディアを制するものは、選挙を制す』。

10月10日現在、今回の選挙で、ハリス陣営はトランプ陣営を大きく上回る10億ドルを集め、MLBポストシーズンのドジャース戦のライブ放送中にも広告を打っています。

一方のトランプ氏は自身のSNSアカウント内で支持者への声掛けを続けており、両者のメディア戦略からも最後まで目が離せません。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL：(076)254-6500 FAX：(076)254-6565  
E-mail：info@chojo-hokugin.jp